

今日のシライ中

白井の愉快的仲間たち

VOL.33

春を待つ

教室から校庭を見れば、なんとも鮮やかな銀杏の葉、葉、葉。でも、その落葉もそろそろ終わりに近づいています。さて、こんなにある落ち葉ですが、だからといって、春までこの状態が続くわけでもありません。「あの葉っぱはどこにいったらうん？」不思議に思ったことはありませんか？まさか、働き者の美化委員が総出で拾いつくす、なんてことは、さすがに無理ですね。そこには、今まで紹介してきた「昆虫・ダンゴムシ・ミミズ・菌類・微生物・キノコetc・・・」たくさんの「分解者」（理科で習うかな？何だろう？調べてみてね。）の働きが欠かせません。私たちの空間とは異なる空間で生きる生物の不思議、です。さて、今回は、一見枯れたように見える、「冬の植物」についての話題です。



例えば、「アジサイ」。冬の「アジサイ」の姿からは、梅雨時の美しい花を咲かせるあの姿は、なかなか想像できません。また、白井中で最も美しい「桜」の木も、今は「桜」であることすら、忘れてしまいそうな状態です。では、彼らは、今、何をしているのでしょうか？「寒いので一回お休み！」。そうです、ざっくりいうと、一回お休み、「休眠」状態に入っています。極力エネルギーを使わず、代謝を下げて、生命の維持に努めています。環境を素早く察知し、生き抜く植物の戦略です。あら？あんなに色々攻めの姿勢を見せていた、したたかな植物も、防戦一方ですか？もちろん、無駄な争いでエネルギーを消費するほど愚かな植物はいません。ただ、何もせず、じっとしているだけでもないのです。それでは何をしているのでしょうか？それは、来るべき「春」に備え、着々と準備をしているのです。今度、「アジサイ」をよく見てください。その枝の先には、「冬芽」と呼ばれる、「春を待つ芽」がすでにあります。「サクラ」も赤みを帯びた「冬芽」が枝先に準備されます。（ちなみに、その年の春咲く花の「基」は、前年の「夏」にできているそうです。なんと見事な計画性！2、3年生、「言葉の力」で読んだ「志村ふくみさんの言葉」覚えていますか？）やはり、「寒いのは嫌」なんだ！それじゃあ、「地球温暖化」って、植物にはパラダイスなんじゃない？いえいえ、話はそう単純ではありません。実は、これらの冬「休眠」する植物は、「寒い冬」を経験しないと正常に開花することができないのです。それは、開花に最適な「春」を間違えないための、「大切な作戦」です。少し寒くなる季節、「冬」以外にもありますね。そうです、「秋」です。「秋」を、あれ？「冬」かな？と勘違いし、その後の暖かい日を「春」と思い開花してしまったら大変です！受粉に不可欠な「虫」はもういないし、そもそも寒い季節はこれからです。そこで、例えば「サクラ」は低温期間の積算日数と、その後の気温の上昇がないと開花しない仕組みを持っています。どうですか！やはり、したたか、しっかり者です。ただ、この「休眠」を破る指示は、「葉」が受け持つので、秋に葉が落ちすぎてしまうと「狂った指示」で「サクラ」が季節はずれに咲いてしまうそうです。これを指して、だから人の成長にも「冬」の季節が必要だ、などと言われがちですが、たぶん、植物は、そんなことはどこ吹く風、軽やかに生きていただけだと思います。